

日付なし（文化十四年（一八一七年）） 資料九七号  
堂修復願い

解説 筆跡は文化、文政期に福寿院住持であった智仍。この住持が在任中の丑年は文化十四年（一八一七年）と文政十二年（一八二九年）であるが、文政十二年には文殊院は無住なので、この丑年は文化十四年と判断した。

この時、台風などで破損したのだろう。鎮守社は前奉行に出された修理願いがそのまま放置されて、事の外大破したので速やかに修復を仰せつけて欲しいと述べる。

原文

奉願口上覚

当山

一 鎮守社

一 本堂

一 宝蔵

右之三ヶ所破損仕候間、

御修覆被仰付被下候様

奉願候、尤鎮守社大破仕

候儀、先御奉行様之節、御願

申上候得共、御沙汰無御座候、及数年

候故而殊之外大破仕候、今度

速被仰付候様奉願以上、

笠置山 多門院

文殊院

福 寿 院

（文化十四年（一八一七年）） 丑九月  
御奉行所様